市民ワークショップ開催結果

開催場所：青梅市役所 2F喫茶コーナー
開催日時：2022 年7月 12 日（火） 18:00～20:25
参加人数：17 人

A班（健康・医療・福祉／子育て・若者・教育）

（１）発表概要

〇青梅で育った人が市外に出るのではなく、青梅市で生み育てることができる環境が必要。
〇そのために空き家を活用してはどうか。
→1つの案として、空き家を一橋大学の学生に提供し、家賃をいただかない代わりに青梅市内の小学生の放課後学習の指導や塾講師になってもらう。
→学生と青梅市の関わりを深めることで、第二の故郷と思ってもらうことも期待できる。
→指導を受けた小学生の夢も広がると思う。（身近なロールモデル）
〇青梅市内には大手企業の物流拠点があるため、見学などを行い子どもが色々なことに触れる機会をつくってあげる。
〇子どもの動機づけにつながる人たちを活用する。
〇こうした取り組みをすることで、青梅市は子育てしやすいまちとして認識してもらい、市外から人が集まると良い。
〇他市町村では企業から寄付を受けるということもあった。青梅市でも未来を担う子どもたちのために企業からの寄付を募っても良いのでは。

○青梅市には素晴らしい伝統・文化・芸術があるにもかかわらず、美術館や資料館など箱がない。子どもたちに継承するために自由に出入りできて、自由に活動・発表できる場所や体験できる場所がほしい。
○活動を継続的なものにするために、市民ボランティアなどを活用して、公的なものと別建てで先を見通した動きができると良い。
○行政職員のスペシャリストを養成し、長期間かけて１つの施策をやり抜く体制があると良い。適材適所な職員配置。
○他市の成功事例では職員の中に情熱を持った人がいた。民間だけでは限界があるため、公的な機関の支えも必要。

Ｂ班（自然・環境・エネルギー／都市基盤・防災・安全）

（１）発表概要

○10 年後の青梅は、「元気なまち」、「人と人がスムーズにつながる、コミュニティが活性化されているまち」になっていてほしい。
○やはり青梅市の一番の特徴は自然になる。自然をコンテンツとして利用するためにはメンテナンスを続ける必要がある中、現在はボランティアの方などに支えられているが、人材は減ってきている。人材確保の呼びかけは行政から行ってほしい。
○青梅市ではスポーツイベントが盛んに行われており、これを活用できないか。（マラソン、カヌー、ラフティングなど）
○スポーツイベントにはマルシェが開催されるケースが多く、青梅でもできないか。
○スポーツイベントを継続するためには行政だけではなく、民間企業（鉄道事業者など）の力が必要になるので、市長が先頭になって民間に働きかけていただきたい。

C班（自然・環境・エネルギー／都市基盤・防災・安全）

（１）発表概要

〇農薬を使うことのリスクを回避するために有機野菜（オーガニック野菜）を広める必要があり、青梅市の豊かな自然を活用した有機農業を推進することが望ましい。
〇地元農家の有機食材を広めるため地産地消を推進する必要がある。
〇地元農家を結ぶプラットフォームになるため市場の開催などを行っている団体がある。市役所の駐車場を開放するなどして、売る場所の確保を図ってほしい。
〇給食でオーガニック野菜を提供してほしい。
〇これらの実現に向けて何ができるか、できるところから手を付けてみる必要がある。

D班（伝統・文化・生涯学習／地域経済）

（１）発表概要

〇若い農家が増えると市外から人が来ることにつながる。その支援の一環として青梅のブランド野菜などがあると良い。
〇人と出会う場所・スポットがほしい。
→何か目的があって出会うのではなく、広い空間の中で目的に縛られない出会い方があると良い。（多様な関わり方）
〇出会って、関わることで何か変化が起こると良い。
〇顔の見える関わり合いは安心につながる。そうした安心は食やエネルギー、文化などの自給自足につながる。
〇人との出会いの場、農家の販売先などとして道の駅があると良い。
〇人との出会いが市外の人との交流につながり、交流が生まれることで産業が発展するといった循環が形成されると良い。

Ｅ班（伝統・文化・生涯学習／地域経済）

（１）発表概要

〇青梅市には素材として良いものはあるが、市外の人だけではなく市民も把握できていない。青梅市の良いところを、世界も含め市内外へ発信していく必要がある。
〇現状、個人や団体、行政などがバラバラで発信している。これらの入り口を１本化することで発信力を高めてはどうか。また、世界に向けて発信するため多言語対応は必須となる。
〇よし梅芳町亭の取り組みを参考に津雲邸など青梅の歴史・文化を広める取り組みをしてはどうか。
〇情報発信するだけではなく、体験（遊ぶ）できる場があると良い。
〇こうした取り組みを進めるためには、現状お金も人も足りていない。それらを確保するために働き手となる世代に来ても必要がある。
〇現役世代は“ワーク・ライフ・バランス”を重視している傾向にあり、自然環境や広い空間を有しているなど、生活の充実につながる環境が青梅にはある。仕事は青梅外であってもリモートワークを活用してもらい、生活は青梅でしてもらうことにつなげる。
〇新たな産業を確立する必要がある。
〇青梅の夢・目標に共感してもらうことで人を呼び込む。